



「和牛日本一」の威信をかけて臨む全共。  
何千、何万の仲間のため、再びの日本一を持ち帰る――。

続いて4頭1組の『南那珂チーム』として、種牛の部第4区（系統雌牛群）に出品するメンバーの皆さんに話を聞きました。

串間初の快挙

5年に1度しか巡って来ない『全共』の大舞台。農家の皆さんにそれぞれの思いがあります。

「主共の場に立てるチャンスを与えてくれたということに喜ばしく思います」と話すのは黒木松吾さん（福島地区・木代）。代表牛『まみ511』は4代かけて取り組んだ改良の集大成。慈しみ育んだ牛への思いはひとしおです。「いい牛を育てるには信頼関係が一番大事。自分と牛をつなぐのは鼻先につけたこの綱だけ。綱を引く力加減であの大きな牛の動きをコントロールするわけですから。ブラッシングなどの手入れも欠かせません。この代表入りにすべてをかけて日々を積み重ねて来ました」と語ります。

ンピオンをねらうのはもとより、日本全国の方に串間の市場性を知ってもらえるいい機会だと思っています。まさに潤いが生まれて、畜産農家が意欲をもって働けるようになり、後継者が多く育ってくれるといいなと思っています。

このほか、日南市・鳥越春枝さんの『たまこ3』とともに4頭一丸となって挑む大舞台。『もう一度奪え、日本一』――。その祈りにも似た言葉を背中に受け、彼らは大会へと臨みます。

日本一をねらえる能力

全共出品への展望について、全国和牛登録協会宮崎県支部業務部長長友明博さんにお話を聞きました。



手応えを感じている  
長友明博業務部長

「南那珂チームが評価された点をお聞かせください。長友さん まず骨味です。

串間初の全共出品で周囲が歓喜に沸く中、「正直、うれしいというよりプレッシャーの方が大きい」と話すのは吉田正彦さん（本城地区・小田代）。『きくみ2

の2』を県代表入りさせた吉田さんは、さまざまな人へ思いを馳せます。「農協や市職員の皆さんが毎日足を運んでくれ、とても感謝しています。また、今回全共に行けなかった仲間やほかの地域の人たち、それぞれのいろんな思いを背負って、みんなの分も頑張らなくてはと思っています」。

前回大会で最高賞を受賞した第4区への出品とあって、メンバー全員が見据える先はもちろん前回同様『内閣総理大臣賞』。代表牛『つみえ221』とともに挑む岩下信さん（北方地区・羽ヶ瀬）は全共への思いをこう語ります。「全共はこれまで雲の上の別世界。今回の出品が信じられません。全共への出品ではグラウンドチャ

牛は骨が細く腱は太い、いわゆる『平骨』が良しとされています。平骨の牛は体の締まりも良く、繁殖性も良い。そして肉質もキメが細かいという特長があります。体の品位も良いですね。活力があり、輪郭も鮮明。これらの特長が4頭にそろって見られたことが一番です。

「種牛の部で南那珂初、かつ串間市初の全共出品です。長友さん 先人たちが築いた歴史を深く感じます。南那珂郡市畜連の前参事で、南那珂の畜産振興に大きく貢献した徳井忠敏さん（享年59歳）が数年前に亡くなりました。宮崎県の畜産リーダーといっても過言ではありませぬ。その徳井さんを『日本一の畜産リーダー』にしたい。そんな思いを代表牛にかけています。

「全共での展望をお聞かせください。長友さん 日本一をねらえる能力は十分にあります。あとは会場に立つだけです。」



本城地区・吉田正彦さん  
代表牛 きくみ2の2

日南市・鳥越春枝さん  
代表牛 たまこ3

北方地区・岩下信さん  
代表牛 つみえ221

福島地区・黒木松吾さん  
代表牛 まみ511